

チーム学校としての協働実践

—インクルーシブ教育の推進力となるために—

企画者	小玉美津子	（神奈川県立座間養護学校）
司会者	小玉美津子	（神奈川県立座間養護学校）
話題提供者	芝崎 律子	（神奈川県立麻生養護学校）
	奥 玲子	（神奈川県立高津養護学校）
	林 大介	（神奈川県立相模原養護学校）
	岸 友芽	（神奈川県立座間養護学校）
指定討論者	伊藤 大郎	（鎌倉女子大学）

KEY WORDS: 地域支援、協働、チーム学校

【企画趣旨】

神奈川県教育委員会では、2008 年より児童・生徒の重度重複・多様化、センター的機能の強化のため、理学療法士（以下 PT）、作業療法士（以下 OT）、言語聴覚士（以下 ST）、心理職を自立活動教諭（以下専門職）として県立特別支援学校に配置し、現在、47 名の専門職が正規職員として採用されている。主な仕事内容は①自立活動の指導助言②個別教育計画の作成・評価への参画等③地域の小・中学校等への巡回相談による教育相談への対応である^{1) 2)}。

通常の学校に対する特別支援学校のセンター的機能の役割が重要視される中、学校教育のレベルを維持向上させるために専門職が地域のリソースとしても期待され、その橋渡しとして教育相談コーディネーター（以下 Co）との協働は欠かせない。本シンポジウムでは、学校・家庭・地域との連携など、Co、各専門職のコロナ禍における校内・校外協働実践に注目し、「チーム学校」として期待されるそれぞれの役割や専門性、今後の在り方について、昨年に引き続き討論を深めたい。

【話題提供の趣旨】

（話題提供者 作業療法士 芝崎 律子）

高等部入学後より段階的な心身の機能低下を呈した生徒について、更生相談所の OT と連携し、自宅の住環境を整え、卒業後の進路先に送り出したケースを経験した。相談支援センターなどを利用していない場合、生活の中の困りごとをどこに相談すべきか、どのような社会資源が利用可能なのかは、本人や家族にはなかなかわかりにくいのが現状である。本ケースでは、学校の相談・地域連携係の一員として、担任を通して保護者のニーズをキャッチし、保護者を適切な機関につなぐことで生徒の地域生活を支えることが出来た。学校では生徒の日々の様子をよく知る担任の気づきが、より充実した支援につながることを実感した。

（話題提供者 言語聴覚士 奥 玲子）

本校は、小・中・高等部からなる知的単独校である。校内には、相談支援担当として Co、心理職、ST が配置されており、それぞれの専門性を活かした役割に加え、協働で校内相談に取り組むこともある。特に、個別教育計画の作成・評価への参画では、多様な視点をもつという点において協働で取り組む内容の一つである。また、校内相談としてあがる主訴の中には、理解や表出も含めたコミュニケーション課題を背景の一つとして捉えることもあり、ST という立場から Co 等とともに検討をしていくこともある。ST が校内支援でどのような役割を担っていけるのか、日々試行錯誤にある。今回は校内支援における協働について実践報告を行う。

（話題提供者 臨床心理士 林 大介）

神奈川県立特別支援学校では、専門職（心理職）は 13 名が在籍しており、各所属校で校内支援・校外支援（地域の教育

機関への巡回相談等）を実践している。校内支援は、学校の特色や専門職の活用方法によって活動の仕方が異なり、さらに学校によって教育部門（知的障害・肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・病弱）も異なるため、実践内容は多岐に渡る。校外支援も同様に、地域の特色や、地域の教育委員会との連携の仕方等により実践内容が異なるため、実践内容の幅は広い。そのため昨年度は心理職の会議の中で、心理職が扱っている業務内容を集約し、表にまとめた。今後「チーム学校」として協働する上で求められる心理職の役割と協働のあり方について、校内外の実践報告を通して、議論を深めていきたい。

（話題提供者 教育相談コーディネーター 岸 友芽）
神奈川県立特別支援学校には全校に Co が配置されているが、その人数においては学校によって異なり、また対象となる地域も比較的限られた学校から広範囲に及ぶところもあり、学校によって Co の動きに差があるのが現状である。その中で校内・校外への支援を行う際に専門職との連携は欠かせないと考えている。県ではエリアを 5 ブロックに分け、ブロック内での専門職活用を進めているが、校内に在籍する専門職はもとより、ブロック内他校の専門職と問題解決に向けて知恵を出し合っていけることは、Co にとっても非常に心強い。昨年は、地域の学校から上がってきた相談内容と、それに合わせて専門職と連携して対応した方策について、主訴別にまとめた DVD「支援のたからばこ」を係で作成し、それらを含め協働実践を報告する。

【指定討論の趣旨：伊藤 大郎】

神奈川県立特別支援学校においては、専門職の配置を開始してから 10 年以上が経過した。この間学校は、校内支援に加えて、小・中学校や高等学校などの校外支援にも積極的に取り組んできた。神奈川県においては、高等学校へ知的障害のある生徒を積極的に受け入れる仕組みができるなど、通常の学校への障害のある生徒の受け入れが進んできた。一方、特別支援学校における重度の障害のある児童生徒へのきめ細かい対応に際して、教員がその専門性を高める必要と共に、教員と協働する専門職の役割が増々求められ、さらに様々な諸機関との連携によるチーム支援の必要性も高まっている。そこでこうしたことを背景に、今回は主に、校内支援の充実強化、教員の専門性向上について議論を深めたい。

【文献】

- 1) 神奈川県教育委員会（2010）：協働支援チーム宣言
- 2) 神奈川県教育委員会（2018）：自立活動教諭（専門職）の手引き—平成 28 年度版—
(KODAMA Mitsuko, SHIBASAKI Ritsuko, OKU Reiko, HAYASHI Daisuke, KISHI Yume, ITOU Dairou)